

# 小学六年

# 国語

# 解答と解説

1

問一
①
イ
③
ウ
問二
i
ウ
ii
エ
iii
ア
問三
ウ

問四
六
、
七
人
の
問五
ウ
問六
イ

問七			
と	お	を	母
。	金	工	さ
	に	面	ん
	困	し	は
	る	た	無
	の	は	理
	で	ず	し
	は	だ	て
	な	か	修
	い	ら	学
	か	、	旅
	と	あ	行
	い	と	の
	う	か	費
	こ	ら	用

問八
エ
問九
う
わ
の
そ
ら
問十
ア
問十一
信
じ
ら
れ
な

2

問一
A
オ
B
イ
C
エ
問二
エ
問三
人
間
的
な
教

30  
31  
32  
33

⑥	①	①	①	問七	問六	問四
短縮	砂糖	エ	た	ウ	最初	1
⑦	②	②	だ	問八	個人	イ
賛否	痛切	ウ	②	ウ	人	2
⑧	③	③	に	問九	と	ウ
寸断	難易	オ	ご	ア	し	3
⑨	④	④	③	問十	て	ア
導	守秘	ア	け	ウ	最後	問五
⑩	⑤	⑤	ず	ウ	(答)	エ
誤	神聖	イ	④		に	46
70	65	60	55	48	47	43
		56	52	49		44
		57	53	50		45
		58	54	51		46

(配点)

{ ① (問一) 各3点、[問二] 各2点、[問七] 8点、他各5点 }  
 { ② (問一・四) 各2点、他各5点 } 計150点  
 { ③④⑤ 各2点 }

【解説】

1 今井恭子の『ギフト、ぼくの場合』から出題しました。

主人公の「ぼく」は、父と母が離婚して経済的に苦しい中、一人で育ててくれる母と妹の美咲といっしょに暮らしています。本文は、修学旅行に行きたいという気持ちと行くことはできないだろうとあきらめる気持ちの間でゆれていた「ぼく」が、母が工面してくれたお金を前に悩み、決断を下す場面です。

問一 A2 知識 関係つけ

①「走り」は、「あることの先がけとなるもの」という意味です。したがって、イが正解となります。また、特に食べ物に使われて「旬より少し早く出回るもの」という意味になることもあります。この場合は「さんまの走り」「走りのいちご」のように使われます。

③「いなして」は「相手からの攻撃や追及をうまくかわす」という意味です。したがって、ウが正解となります。

問二 A2 関係つけ 知識

それぞれ次のことばが入ります。

i 修学旅行での行動計画を話し合うグループ活動に対して、「ぼく」はあまり乗り気ではありません。そもそも修学旅行には行けない可能性が高いと考えているので、やる気も起きないのです。したがって、「いやいや」が入ります。

ii 直前の「そういう子」は「不登校気味の生徒」を指しています。ふだんから不登校気味の生徒が修学旅行だけ参加しようとする可能性は低いと「ぼく」は考えています。したがって、「わざわざ」が入ります。

iii 先生の「はい、そうじ当番の人、その壁のポスターは

がしてねー」という発言は、帰りの会が終わったことを示しています。そうじ当番は指示されたことを始め、その他の生徒は思い思いに帰り始めています。したがって、「がやがや」が入ります。

問三 B1 具体化 比較

行動に表れた気持ちを読み取る問題です。その行動を取ることで何を実現しようとしているか、あるいは、その行動を取らなかった場合にどのような都合なことが起こり得るか、ということを意識して考えましょう。経済的に苦しく最新版のガイドブックを用意できない「ぼく」は、図書館から借りてきた古いガイドブックを広げています。それをみんなに知られたくなくて、腕を上へのせたり、プリントでかくしたりしているのです。したがって、ウが正解となります。ア「旅行に興味がない」、イ「修学旅行には行かないつもりでいる」、エ「かわいそうに思われたくない」がそれぞれ誤っています。

問四 B1 具体化

宮崎さんのことを気にかける同級生がいなかったことが端的にあらわれているのは、先生が転校の事実を告げたにもかかわらずそれに対して数人の女子が反応しただけで、それ以外の反応が特になかった場面です。もともと影がうすくみんなから気にかけれられていなかったため、宮崎さんの転校のことを聞かされてもみんな大して反応しなかったのです。

問五

**B1** 具体化 比較

おどろいた「ぼく」がその後三田口にどんなことを言っているか、あるいは何をしているかをおさえましょう。「ぼく」のおどろきが一番よく表われているのは「だから……おまえ、宮崎さんから直接聞いたの？」という発言です。これはその後の「無口なあの子の事情を聞きだすなんて」からも読み取れます。したがって、ウが正解となります。ア・イは事実としては正しいですが、「ぼく」が一番おどろいた内容としてはふさわしくありません。また、エは、事情を知っていたことではなく軽々しくしゃべったことが中心になっているため、当てはまりません。

問六

**B1** 理由 比較

すぐに本当のことを伝えてしまうより、相手に考えさせて真実に気づかせる方が喜ぶが大きくなるだろうと思つての行動です。直前の「いたずらっぽい目つき」にも注目しておきましょう。したがって、イが正解となります。ア「理解できないだろう」、ウ「安心して『ぼく』にお金を渡せる」、エ「まだ悩んでいる」がそれぞれ誤っています。

問七

**B2** 具体化 推論

線⑦に続く部分で、もう一つの「心配なこと」が語られています。「どちらにしろ、無理して工面したのはわかっている」「あとから困るに決まっている」の二点を盛りこんで解答を作りましょう。

※ 設問の指示や字数・文字指定に従っていないものは不正解とします。ただし、誤字脱字が一つの場合は減点1点、

二つある場合は減点2点、それ以上は不正解とします。また解答の説明に過不足がある場合は減点3点とします。

問八

**B1** 理由 比較

大金を預かっているのだから、心配をなくすにはできるだけ早く先生にお金を渡した方がよい場面です。それにもかかわらず「ぼく」はお金を手元に持ったままにしているので、何か考えがあるのだとわかります。「ぼく」は——線⑧に続く場面で修学旅行に行くかどうかを迷い、最終的には行かないという決断をしています。すぐにお金を渡してしまわなかったのは、決断をする直前まで迷うためだったのです。したがって、エが正解となります。ア「行くべきではないと思つていた」、イ「簡単に盗まれはしないだろうと感じていた」、ウ「母さんがむだな買い物をしてくるのではないかと心配」がそれぞれ誤っています。

問九

**A2** 知識 関係づけ

この場面で、「ぼく」は修学旅行に行くか行かないかだけを真剣に悩んでいます。したがって、目の前の授業にはまったく集中できていないこととなります。その状態を表し、「う」から始まって「ら」で終わるひらがな五字の言葉は「うわのそら」です。

問十

**B1** 関係づけ 比較

最後の請求書を破り捨ててしまったことで、修学旅行の費用を払うことはできなくなってしまうました。と同時に、「ぼく」は自分だけが修学旅行に行つて楽しんできている

だろうかという悩みからは解放されたことになります。直後の「犯罪でもおかしたように、ちよつとうれしかった」にこの気持ちがよく表れています。したがって、アが正解となります。

問十一 **B1** 関係つけ

ぬけている文をもとにもどす問題です。このような問題では、ぬけている文自体からできるだけ前後の内容につながりそうな表現を見つけ出し、「どのような内容が前にあるはずか」「どのような内容が後に続くはずか」を考えてからもどる場所を探しましょう。「そう言われても」から、「ぼく」が誰かから何かを言われている場面であること、「すっかり目が覚めて」から、ふつうなら寝ているような時間帯であることが読み取れます。以上のことを踏まえて本文を探すと、——線⑥の十三行後に、「ぼく」がお母さんから「さつ、もう寝なさい」と言われている場面が見つかります。

**2** 汐見稔幸「天才」は学校で育たない」から出題しました。学びの場とはどのようなものであるべきかということについて、日本とヨーロッパの比較を通じて考察した文章です。

問一 **B1** 関係つけ 比較

一つ目の **A** の直前には学校では家庭科の料理実技が年にいちどあるかどうかというくらい少ないことが書かれています。子どもが料理をするのが好きだとか得意だと言っているも、このような状況で親が子どもに料理の道を進ませようと思うことは難しいでしょう。また、二つ目の **A** がふく

まれる段落では、石鍋裕さんの修業中の体験として、料理の知識や技術だけでなく教養も身につけるよう指導されたことが書かれています。修業をする際に一番気になるのは素人とはまるでレベルのちがう知識や技術を身につけることだと考えられます。以上のことから、**A** には「専門的」が入ります。**B** のある段落では、子育て中のお母さん同士やかつて子育てをした女性がまわりにいれば、ひとりでも子育てをしているお母さんが知恵をもちょうことができ、安心して子育てにむかえることが書かれています。したがって、**B** には「心理的」が入ります。**C** の前後ではヨーロッパの都市と日本の都市が対比され、都市の統治に対して人々がどのように関わろうとしてきたかが説明されています。自分たちの力で街を豊かにしようと考えてきたヨーロッパの人々と比べ、日本の都市では自治という考え方は育ちにくかったという文脈になるでしょう。以上のことから、**C** にはヨーロッパとの比較、という意味で「相対的」が入ります。

問二 **B1** 理由 比較

——線①は筆者ではなく土井勝氏の発言です。それについて筆者がその理由を考えているところを探しながら読みましょう。他者の発言の理由を説明するわけですから、断言的な口調になるよりは「くだろう」「くかもしれない」などの形になりやすいことを意識すると良いでしょう。——線①の次の段落の「そういった勉強をすべて合わせて、舌を鍛えるためには子どもの頃から訓練するほうがよい、ということだったのでしょう」がそれにあたります。したがって、エが正解となります。ア「早い時期に高級な味を知るべき」が誤って

おり、イ・ウについては本文で説明されている事実であり、筆者が考えた土井さんの発言の理由としてはふさわしくありません。

問三 **B1** 具体化 **関係つけ**

——線②と同じ段落の言葉で言うと、「教養もしつかり身につけさせる」というのがルーブル美術館に行かせる理由です。——線②の次の段落に書かれているように、料理以外の要素も楽しもうとしてレストランにやってくるお客さんを満足させるために、レストランを素敵に飾れるよう美術の素養をつけるのがその目的です。字数の条件もあわせて考えると、《1》の二行後の「人間的な教養を身につける」がふさわしいとわかります。

問四 **A2** 関係つけ **知識**

それぞれ次のことばが入ります。

1 直前の「レストランを素敵に飾れなくてはいいシエフになれない」という内容が、直後の「美術館で目を肥やしてこい」の理由になっています。前後が因果関係で結ばれていますから、「だから」が入ります。

2 直前までの部分で、日本人は個人と公人のふたつの側面を区別して議論してきた経験が少ないので理解しづらいかもしれませんということが書かれています。これに対して直後では、ヨーロッパの人たちがそれとは異なる経験をしてきていることが指摘されています。そのくわしい内容は「たとえば、フランスの人権宣言」以下に説明されています。前後が対の内容になっていますから、「でも」が入ります。

ます。

3 《3》をふくむ文の途中に並列を示す「も」があることに注意しましょう。直前までに書かれているコミュニケーションのあり方に、直後で説明されている「税金の適切な使い方」を並列する形で加えていることがわかります。したがって、「また」が入ります。

問五 **B1** 具体化 **比較**

——線③直前の「そういう意味で言えば」を見逃さないようにしましょう。直前の段落に書かれている「私教育は生徒自ら、あるいは保護者が数ある教育機関の中から選んで、教えと学びの関係をつくりまします。一人ひとりの子どもの興味関心に沿っていくので、当然多様なものにならざるを得ません」という内容や、——線③の次の段落に書かれている大学の内容をふまえて選択肢を検討しましょう。適当でないものを選ぶ問題であることにも注意が必要です。エのみ、国家が作る大学、すなわち公立の学校の説明になっています。

問六 **B1** 具体化

「ふたつの責務」自体は——線④の直後から説明されています。これをまとめた部分が出てくるのは——線⑦から五行前の部分です。傍線部の近くだけをやみくもに探すのではなく、どのような内容を探しているのかをしつかり意識した状態で本文を読み進めるようにしましょう。

問七 **B1** 関係つけ **比較**

⑤の七行後に「もうひとつは」とあることから、ここ

で述べられていることは異なる内容が⑤に入るかわかりません。「もうひとつは」で始まる段落では群れ、すなわちコミュニティにおける人間の話が書かれています。このことから、⑤には「個人としての人間」に関わる話が書かれているとわかります。直後に続く「どんな仕事につきたいか、どんな趣味を持ちたいか、どんな人を恋人にしたいか、どんな生き方をしたいか」という内容もふまえると、ウが正解ということになります。

問八 **B1** 具体化 比較

本文でコミュニティの質を高めるための問題、課題について述べられている部分を確認しておきましょう。《3》のある段落までで具体的なそれぞれの問題が挙げられ、それに続く段落で「つまり」以降に「できるだけ構成員が平等に幸せになっていけるようなコミュニティはどうやって作れるのか」とまとめられています。このことから、ウが正解となります。ア「他のコミュニティより自分たちのコミュニティが豊かになるには」、イ「自分の生活を優先させて」、エ「誰が責任をもって解決するのか事前に決めておく」がそれぞれ誤っています。

問九 **B1** 理由 比較

日本において「市民」の感覚がうすい理由は、——線⑦から文章の最後にかけて説明されています。その部分の内容とつながるアが正解となります。イ「都市に住むことができるのは特別な階級の人だけ」、ウ「市民として成長する必要性も感じていない」、エ「よそものを入れないための仕組み自

体がなく」がそれぞれ誤っています。

問十 **B1** 抽象化 比較

本文の内容と合っているものを選ぶ問題です。選択肢の内容が本文のどのあたりの内容をもとに作られているかを意識し、必ず本文にもどって選択肢を見比べるようにしましょう。ア「美術においても高い技能を発揮できるように」、イ「学校での学びに違和感を持つことがないように」、エ「すべての人に対して平等な教育を行うことが求められる」がそれぞれ誤っています。また、ウの内容は——線②と——線③の間で述べられている内容と一致しています。

③ **A1** 知識

慣用句の問題です。意味をおさえたとうえで、同意の熟語やことわざなども覚えておきましょう。

④ **A1** 知識

俳句の問題です。□以外の部分でどのような場面が展開されているか、できるだけ頭の中で映像化して考えるようにしましょう。その言葉を入れることによって俳句全体がどのようなストーリーになるのか、ということを考え、実際に言葉を入れて読んで確認することが大切です。